

山口県病院協会 会報

2022 **7月号** No.76

- 発行日 令和4年7月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



国立大学法人 山口大学医学部附属病院

〒755-8505

住 所 宇部市南小串1丁目1番1号

電 話 0836-22-2111

FAX 0836-22-2113

U R L : <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介.....	2ページ
令和4年度定時総会.....	3ページ
優良職員表彰受賞者一覧.....	4～5ページ
協会役員コーナー.....	6ページ
病院スタッフコーナー.....	7ページ
春の叙勲.....	8ページ
研修会報告.....	8ページ
部会コーナー.....	9ページ
諸会議報告.....	9ページ
お知らせコーナー.....	10ページ

会員病院紹介

病院長挨拶



山口大学医学部附属病院

病院長 杉野 法広

山口大学医学部附属病院は、ベッド数756床、30診療科と24の診療部を擁し、あらゆる分野の疾患を総合的に診療できる山口県内唯一の特定機能病院です。

本院では、国立大学病院としては初となる2回目の病院再開発整備事業を2015年から進めています。この主要事業である新病棟は、2019年6月24日に開院し、順調に稼働しています。この新病棟の整備により、屋上ヘリポートを活用した救命救急医療や周産期救急医療などの高度急性期救急医療がさらに充実しました。本院の「高度救命救急センター」は、自治体と連携し、ドクターヘリ・ドクターカー・新生児ドクターカーの基地病院として、山口県全域の救急医療体制を担っています。手術室も12室から16室に増え、MRIや血管造影撮影装置などの最新機能を備えた手術室も導入しました。集中治療室も12床から16床に増床し、高度な手術を含め多くの手術の実施が可能になりました。県内全域の緊急度・重症度が高い患者をさらに多く受け入れることができるようになり、地域医療の更なる充実に貢献できると考えています。現在も、既存病棟や外来棟の改修を行っていますが、本整備事業は2025年度（令和7年度）に完成する予定です。

新型コロナウイルスCOVID-19感染は、第6波の感染拡大や新型の変異株の発生が見られていますので、依然として油断ができない状態です。本院では、これまで通りの高度医療を提供するために、患者さんが安心して必要な医療を受けられる環境、職員が安全に医療を提供することができる環境を整えています。一昨年の4月に立ち上げたCOVID対策チーム（YUMECO）が中心となっています。「チーム山大病院」となり、教職員が一丸となって新型コロナウイルス感染症の対策に尽力しています。

山口大学医学部附属病院は、県内唯一の特定機能病院として、「最後の砦」としての役割を果たすべく更なる充実を目指し今後も精進していきます。

<病院の現状>

1) 概要

名 称 国立大学法人 山口大学医学部附属病院
開設者 国立大学法人 山口大学
所在地 山口県宇部市南小串 1-1-1
T E L 0836-22-2111
F A X 0836-22-2113
U R L <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp>
病床数 756床

標榜診療科 内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、精神科、心療内科、小児科、アレルギー科、外科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、小児外科、整形外科、リウマチ科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、産婦人科、麻酔科、脳神経外科、歯科口腔外科、脳神経内科、臨床検査科、病理診断科、救急科、リハビリテーション科

各 種 指 定 消防法の規定に基づく救急病院、臨床修練指定病院、特定機能病院、災害拠点病院、日本医療機能評価機構認定病院、難病診療連携拠点病院、高度救命救

急センター、都道府県がん診療連携拠点病院、エイズ治療中核拠点病院、肝疾患診療連携拠点病院、山口県DMAT指定病院、総合周産期母子医療センター指定病院、原子力災害拠点病院、都道府県アレルギー疾患医療拠点病院

2) 沿革

昭和19年4月 山口県立医学専門学校設置
昭和42年6月 附属病院創設（国立移管）
平成16年4月 国立大学法人へ移行
令和元年6月 附属病院 A棟（新病棟）開院、病床数756床に変更
令和2年3月 病院機能評価（3rd G:Ver.2.0）一般病院3認定

令和4年度 定時総会開催

日時 令和4年5月25日（水）15：30～17：00

場所 山口グランドホテル 孔雀の間（山口市小郡黄金町1-1）



開 会

令和4年度の総会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、特別講演を中止とし、三密に充分配慮した形での開催となり、三浦会長の挨拶とともに開会した。

総会成立宣言

審議に先立ち、事務局より、会員総数128名に対して出席者105名（うち委任状84名）である旨の報告がなされ、三浦議長により総会が有効に成立する旨宣言がなされた。

議事録署名人選出

本日の議事録署名人として、三田尻病院神徳理事長及び玉木病院玉木病院長が選出された。

議案審議

○議案第1号

「令和3年度事業報告及び収支決算の承認について」

事務局より、令和3年度に実施した各種事業内容について説明と報告がなされた。さらに、令和3年度における当協会の収支決算状況について収支決算書に基づき説明と報告がなされた。

続いて尾中監事より、令和3年度の事業並びに決算関係資料について城甲監事とともに詳細に検討した結果、いずれも適正かつ適切に処理されている旨監査報告がなされ、審議の結果、原案どおり可決承認された。

報告事項

議案の審議終了後、事務局より令和4年度事業計画及び収支予算について詳細に説明が行われた。

閉 会

三浦議長より、本日の定時総会はすべて終了したことが告げられ議事の進行への協力に対する感謝の意が述べられたのち、神徳副会長による挨拶により閉会となった。



受賞おめでとうございます

令和4年度 病院優良職員表彰 受賞者名簿

病 院 名	役 職	姓 名
阿 知 須 共 立 病 院	看 護 補 助	正 司 洋 子
〃	看 護 補 助	三 好 百 合 子
阿 知 須 同 仁 病 院	検 査 技 師	平 田 治 美 子
〃	介 護 福 祉 士	松 本 智 子
岩国市医療センター医師会病院	看 護 師 長	河 邊 景 子
〃	副 看 護 部 長	浜 佳 恵 子
岩 国 病 院	介 護 福 祉 士	萩 原 村 明 公 子
宇 部 興 産 中 央 病 院	看 護 師 長	野 村 礼 子
宇 部 仁 心 会 病 院	看 護 部 主 任	田 中 妙 子
宇部西リハビリテーション病院	准 看 護 師	木 村 忍
〃	清 掃 員	水 津 紀 代 美
宇部リハビリテーション病院	介 護 福 祉 士	下 瀬 義 雄 子
〃	准 看 護 師	富 田 智 恵 子
大 田 病 院	看 護 師	久 保 克 子
〃	作 業 療 法 室 主 任	望 月 健 史 子
岡 田 病 院	看 護 師	藏 本 道 子
〃	看 護 主 任	中 野 真 由 美
小 郡 第 一 総 合 病 院	准 看 護 師	藤 本 和 典 子
〃	看 護 補 助 者	吉 村 典 子
小 郡 ま き は ら 病 院	薬 局 長	久 保 淳 子
〃	看 護 師	洪 谷 千 枝 子
尾 中 病 院	医 事 課 主 任	磯 部 京 子
〃	看 護 師	奥 岡 礼 子
片 倉 病 院	看 護 補 助	大 山 博 幸 枝
〃	准 看 護 師	福 井 紀 美 智 代
吉 南 病 院	病 棟 看 護 師 長	川 横 沼 亮 子
〃	情 報 管 理 室 長	小 野 み ち 子
玖 珂 中 央 病 院	調 理 員	松 尾 恵 美 子
〃	病 棟 師 長	田 中 口 喜 江
下 松 病 院	看 護 補 助	川 本 島 太 郎
光 風 園 病 院	保 育 主 任	森 王 み ゆ き
〃	看 護 主 任	山 崎 香 主 知
高 嶺 病 院	准 看 護 師	小 松 南 貴 宏
〃	看 護 師	玉 川 恵 子
坂 本 病 院	診 療 放 射 線 技 師	小 南 川 忍
〃	人 工 透 析 室 副 主 任	
佐 々 木 外 科 病 院	総 合 健 診 セ ン タ ー 課 長	玉 川 忍
サ ン ポ プ ラ 病 院	看 護 助 手	長 谷

病 院 名	役 職	姓 名
山 陽 小 野 田 市 民 病 院	副 看 護 部 長	笹 尾 千 春
〃	副 院 長	豊 重 充 広
重 本 病 院	看 護 課 長	河 野 智 賀 子
〃	准 看 護 師	田 村 小 夜 子
周 南 記 念 病 院	看 護 師 長	佐 々 木 恵 子
周 南 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	看 護 師 長	原 万 村 由 紀 子
〃	リハビリテーション部主任	岡 田 祥 秀
セ ン ト ヒ ル 病 院	看 護 師 長	松 谷 多 美 江
〃	薬 剤 部 長 代 理	荒 瀬 美 佐 子
桑 陽 病 院	准 看 護 師	田 中 順 裕 子
田 代 台 病 院	看 護 師	平 藤 井 浦 子
〃	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
徳 山 医 師 会 病 院	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	検 査 助 手	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
徳 山 中 央 病 院	臨 床 検 査 技 師 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
仁 保 病 院	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	准 看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
光 中 央 病 院	検 査 科 主 任	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
福 永 病 院	看 護 補 助 主 任 補 佐	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	准 看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
藤 政 病 院	総 務 課 主 任	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
防 府 病 院	事 務 員	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
松 本 外 科 病 院	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
三 田 尻 病 院	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	看 護 主 任	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
み ど り 病 院	准 看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	放 射 線 室 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
山 口 県 済 生 会 下 関 総 合 病 院	看 護 師 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	看 護 師 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
山 口 県 立 総 合 医 療 セ ン タ ー	薬 剤 部 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	中 央 検 査 部 副 技 師 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
山 口 大 学 医 学 部 附 属 病 院	副 看 護 部 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
山 口 よ し き 病 院	調 理 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	看 護 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
山 口 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院	診 療 放 射 線 技 師	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	介 護 福 祉 士	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
湯 野 温 泉 病 院	看 護 師 長	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村
〃	看 護 主 任	三 三 伊 達 下 谷 林 賀 中 村 浦 永 田 山 田 田 藤 原 村 藤 野 田 原 谷 村

受賞者人数 77 名

協会役員コーナー

ワークショップとの出逢い



独立行政法人国立病院機構
関門医療センター
病院長 林 弘人

平成13年12月、ワークショップ最終日、締め括りの30秒感想で「山口県でも一流の研修病院を創ります」、そう宣言したことが昨日のことに思い出されます。前日、日にちが変わる時刻まで日野原重明先生とお話した興奮が冷めやらぬ中での発言であったと思います。通称「富士研」、正式には「医学教育者のためのワークショップ」という我が国で最も歴史のある臨床研修指導医講習会でのことでした。霊峰富士を眼前に仰ぐ静謐な環境は、まさにRetreat（退修）に相応しく、5泊6日の研修は“行”とも云えるような体験でした。洗脳されたとしても申しましょうか、2年後に始まる初期臨床研修制度に向けて、参加者の皆さんが真剣そのもので、一流の研修を目指して日夜真摯な討論が展開されました。帰路の新幹線で心地よい疲労感の中、理想の研修病院について思いを巡らせていたとき、ふと当院は研修指定病院であったものの研修医ゼロ状態が続いていたことに気付き一気に現実に引き戻されました。直ちに研修プログラム作成に取り掛かりました。それから20年余り、未だ試行錯誤の連続です。一方、タスクフォースやコンサルタントとして、青森県や秋田県から沖縄県に至るまで100回以上のワークショップにお招きいただき、多くの指導医や医学教育関係者との邂逅に恵まれました。最近では、当センターで研修した教え子が多く参加してくれるようになり、歳月の流れを感じております。富士研からの帰路に思い描いた理想の研修病院像、富士山に例えるなら未だ頂上が見えない森林限界の手前といったところでしょうか。

コロナ、ウクライナ、糖尿病



周南市立新南陽市民病院
病院長 松谷 朗

コロナ禍が2年以上続くことになろうとは予想はしておりませんでした。最近では感染者数の増加はあるものの明らかに軽症例が多く、このまま終息にむかってくれることを祈るばかりです。2月末以降、世界中の懸念はむしろロシアのウクライナ侵攻に向けられています。軍事大国による独立国に対する一方的な軍事侵略は、大多数の人類にとって許し難い暴挙であり、帰結の如何に関わらず、首謀者がその責任から逃れることはできません。関係諸国の様々な思惑が入り乱れ、複雑な様相を呈してきましたが、こちら一刻も早く解決することを祈るばかりです。ベトナム戦争、アフガン侵攻、ソ連の崩壊、天安門事件、クエート侵攻、ISのテロ（順不動）と近年様々な国際的事件・紛争が繰り返されてきましたが、今回のウクライナ侵攻でこれまでと大きく異なるのは、インターネットを通じたりリアルタイムの情報の拡散とITを駆使した戦闘形態、また兵器の格段の進歩です。ジャベリンの戦車を破壊するメカニズム、ドローンによるコスバの良戦車や軍艦の破壊を目の当たりにすると、戦争というよりゲームか新製品のお披露目会のような錯覚に陥りそうです。

先日3年ぶりにリアル糖尿病学会（神戸）に参加して勉強して来ました。医学分野におけるテクノロジー、研究の進歩にも目を見張るものがありました。Web学会参加ではどうしても集中力が途切れます。アルツハイマーにならない限り、今後も学会には参加することにします。兵器の進歩と、医学など人類に有益な科学の進歩とのギャップを埋めるものはマルクス・ガブリエルの唱えるごとく、倫理的資本主義しかあり得ないと、いたく共感した次第です。彼の本をプー〇〇にもぜひ読んで欲しいが、決してその思想には納得しないだろう。

病院スタッフコーナー

医療と介護の連携強化



医療法人山口平成会
山口平成病院
理学療法士

係長 福田 剛史

医療と介護が連携して、患者様や利用者様に一体的にサービスを提供する必要性について、活発に議論されるようになりました。連携の必要性は昭和の時代からあったと思いますが、実際に急性期病院と回復期・慢性期病院のような医療機関同士の連携が活発になってきたのが平成10年代、医療機関と介護事業所の連携が活発になってきたのが平成20年代くらいではなかったかと思います。リハの視点から医療と介護の連携を評価すると、私はまだ満足できるレベルではないと考えています。

具体例を挙げると、リハ職が確認しておきたい情報の一つに、金属挿入体の有無があります。リハでは低周波やマイクロ波などの治療機器を使用することがありますが、体内にペースメーカーや人工関節等の金属があれば、その部位は禁忌となります。また、既往歴に「平成〇〇年、大腿骨骨折」とあり、股関節部に手術痕があれば「大腿骨近位の骨折で、金属が入っているらしい。」ということは分かりますが、骨接合術か人工骨頭置換術かの違いで脱臼リスクが大きく変わります。しかしながら、何年も前の細かい情報は、どうしても入手困難なことが多いです。

そこで、金属挿入体の有無や術式、運動時の注意事項などが一目で分かるように、お薬手帳ならぬリハ手帳があればと思う今日この頃です。医療機関（特に急性期病院）のリハ職の業務が増えてしまいそうですが、リハ分野の連携強化はリハ職の責務かと思っています。

転倒・転落事故発生率「ゼロ」へ



医療法人社団豊美会
田代台病院
看護部長

松浦 尚稔

当院は総病床数302床、そのうち認知症治療病棟が2棟、102床を有しています。

その入院患者さんの平均年齢は86歳と高齢で、多くの患者さんがデイルームや廊下を自由に行き来されています。

そんな環境下でいつも問題になっているのが転倒・転落事故の発生です。打撲、骨折等の負傷をまねくケースもあり、リスクマネジメント検討会を中心に事故をいかに防ぐか対策をとってもなかなか結果に結びついていきません。「いっそ部屋中の壁、床、天井にクッション材を貼り付け無重力空間の病室を作ったらどうだろう……」と非現実的な妄想を抱く今日この頃です。それだけ切実であり認知症治療病棟にとっては「永遠のテーマ」かもしれません。

転倒・転落事故発生率「ゼロ」は不可能にしてもそれに近づける取り組みは必須であり、当院では転倒・転落のインシデント・アクシデントレポートや危険リスク要因の統計・分析を行い多面的にアプローチしています。特にBPSD（認知症における周辺症状）に関連した転倒も多く、薬物治療の経過や行動の観察に重点を置くことや喪失体験の強い患者さんには、焦り、緊張を軽減させるため穏やかで安心できる居場所の提供を考えるなど患者さん個々の問題に焦点をあてています。

約20数年前、私が尊敬する某病院のドクターが、「うちは訪問診療が忙しいから人や物を瞬時に運んでくれるドラえもんのタケコプターが欲しいね」と笑って言われていましたが、現在ドローンの開発で現実化に向かっていきます。数十年後、無重力空間の病室も「ゼロ」ではないかもしれません（笑）。

瑞宝小綬章受章

おめでとうございます

令和4年春の叙勲におきまして、当協会の推薦により、元岩国市医療センター医師会病院長で当協会の元理事でもあった 内山 哲史 先生が、保健衛生に尽くされた功績により、瑞宝小綬章を授与されました。心よりお祝い申し上げます。

今後ともご健康に留意され、今後の地域医療における、ますますのご活躍をご期待申し上げます。



瑞宝小綬章勲記

主な略歴

昭和55年6月～平成5年7月	山口大学 医学部第2外科助手
平成10年4月～平成28年3月	同 非常勤講師
平成17年11月～平成23年10月	同 消化器腫瘍外科臨床准教授
平成23年11月～平成29年10月	同 臨床教授

平成5年8月～平成14年3月	岩国市医療センター医師会病院 外科勤務
平成14年4月～平成29年3月	同 病院長



山口県庁伝達式にて

研修会報告

令和4年度 病院初級職員研修会

令和4年6月20日（月）セントコア山口において、病院初級職員研修会が開催された。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の為、昨年は開催を無期延期としたため、2年ぶりの開催となり、78名の参加があった。今回は会場定員の半数での実施とし、座席どうしの間隔を充分とって行った。

研修会のテーマ・講師は以下のとおり。

【研修会】テーマ 「病院で働くために必要な接遇技術」

講 師 有限会社ケイ・アンド・ワイ 人材育成部門 代表 温品 富美子 氏



温品 富美子 氏



研修会風景

部会コーナー

山口県病院協会 事務長部会 第1回常任幹事会

日 時 令和4年6月22日（水）15:30～17:00

開催場所 山口県総合保健会館 第2研修室

【協議事項】

1. 研修会「サイバー犯罪の情勢と対策」
講師 山口県警察本部 生活安全部生活環境課
課長補佐 三宅 和成 氏
2. 令和4年度事務長部会総会および研修会について
3. その他



山口県警察本部による研修

諸会議報告

令和3年度 第5回理事会

日 時 令和4年3月25日（金）15:00～16:45

開催場所 山口グランドホテル

【議 事】

1. 山口県病院協会職員服務規程の改定について
2. 山口県病院協会の令和4年度事業計画書（案）並びに収支予算書（案）の設定について

【承認事項】

1. 令和3年度山口県病院協会決算予測について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医師会地域医療対策委員会委員
会 長 三浦 修 （再任）
 - ・山口県献血推進協議会委員
副会長 馬場 良和 （再任）
 - ・山口県医療勤務環境改善支援センター運営協議会委員
常任理事 松谷 朗 （再任）
2. 県各種委員会等の報告について

三浦会長

 - ・コロナ対策関係機関連絡会議 （1月13日）
 - ・第7回新型コロナウイルスワクチン接種対策会議 （2月3日）
 - ・第1回医療対策協議会 （2月17日）
 - ・第108回山口県医療審議会医療法人部会 （2月24日）

神徳副会長

 - ・第3回山口県循環器病対策推進協議会 （2月15日）

玉木常任理事

 - ・令和3年度第1回山口県社会福祉審議会 （3月25日）

林常任理事

- ・山口県がん対策協議会がん登録部会 （1月21日）
- 茶川常任理事
- ・山口県看護職員確保対策協議会 （2月24日）
- 西田常任理事
- ・山口県救急業務高度化推進協議会・幹事会合同会議 （3月10日）

3. その他

令和4年度 第1回理事会

日 時 令和4年5月11日（水）15:30～16:30

開催場所 山口グランドホテル

【議 事】

1. 令和4年度定時総会提出議案について
 - ・令和3年度事業報告書及び収支決算書について

【承認事項】

1. 令和4年度病院優良職員表彰について
2. 令和4年度医療懇話会の開催について
3. 第37回中四国精神保健福祉士大会 山口大会の後援依頼について
4. 令和4年度病院初級職員研修会の開催について
5. その他

令和4年度 第1回情報管理委員会

日 時 令和4年6月14日（火）15:30～16:30

場 所 セントコア山口

【協議事項】

1. 7月号の発行について
2. 10月号の発行準備について
3. その他

お知らせコーナー

山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰

山口県病院協会より推薦した・名の方が、多年にわたり看護業務に従事した功績により、令和4年度山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰を受賞されました。おめでとうございます。

氏名	病院名
伊藤 美登里	山口県済生会山口総合病院
紙 直子	山口大学医学部附属病院
重 富 美喜江	山口県立総合医療センター
永 井 敦子	徳山医師会病院
永 見 弘子	山口県済生会豊浦病院
一 柳 恵美子	安岡病院
廣 田 美幸	宇部西リハビリテーション病院
藤 田 智美	関門医療センター
藤 村 美代子	下関市立市民病院

（氏名の50音順にて表記）



表彰式にて（前列左から重富、紙、廣田の各氏、後列左から藤村、一柳、伊藤の各氏）



永井氏



永見氏



藤田氏

会員等の異動

会員の変更

- ・光市立光総合病院
- ・宇部興産中央病院
- ・セントヒル病院

変更後

- 病院長 竹中 智昭
- 理事長 西崎 隆文
- 病院長 藤井 善蔵

変更前

- 病院長 桑田 憲幸
- 理事長 清水 昭彦
- 病院長 西嶋 雋嘉

会員の法人変更

- ・安岡病院

社会医療法人松涛会

医療法人社団松涛会

その他の変更

- ・周南リハビリテーション病院
- ・鼓ヶ浦こども医療福祉センター
- ・都志見病院

- 病院長 江頭 健輔
- 病院長 市山 高志
- 病院長 山本 達人

- 病院長 廣田 晴郎
- 病院長 杉尾 嘉嗣
- 病院長 亀田 秀樹

会員・賛助会員の退会

会員

- ・鹿野博愛病院

賛助会員

- ・星光ビル管理株式会社

病院協会の主な行事予定

- 7月・日 第1回事務長部会研修会（会場：未定）
- 8月26日 医療懇話会（会場：セントコア山口）

編集後記

雨晴海岸から望む標高3,000メートル級の山々。雪を頂く立山連峰と富山湾の雄大な眺めは、まさに絶景です。～立山（たちやま）に降り置ける雪を常夏に見れども飽かず神（かむ）からならし～（大伴家持）◆この2年余り、コロナに翻弄され国内旅行も儘ならない厳しい状況が続いています。趣味が旅行、食べ歩きの皆さまには辛い日々をお過ごしのことと拝察いたします◆内山哲史先生、瑞宝小綬章受章おめでとうございます。また、病院優良職員表彰、山口県健康福祉功労者（優良看護職員）知事表彰受賞の皆さまには衷心よりお祝い申し上げます◆コロナ禍で大変な日々ですが、何か新しいことにチャレンジするのも良いかもしれません。バーチャル旅行にでも出掛けてみましょうか。（林 弘人）